

適切な水管理と適期の病害虫防除で高品質な米に仕上げましょう！

○「富富富」の生育概況

近年に比べ、生育が大変早くなっています。草丈は近年並み、茎数は近年よりやや多い。葉齢は0.6葉進んでおり、葉色は近年並みとなっています(表1)。

幼穂形成期は、5月11日頃の田植えで7月6日頃と見込まれます。

表1 生育状況(6月29日現在)

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢	葉色
R8	51.6	557	11.2	4.2
近年値	49.6	520	10.6	4.2

5月11日田植え生育調査値 ※近年値(H29~R7)

表2 分施栽培の穂肥時期と施用量の目安

	1回目	2回目
	幼穂形成期の7日後 (7/13頃)	1回目の7日後 (7/20頃)
追肥 3号	5~7 kg/10a	10 kg/10a

1 穂肥

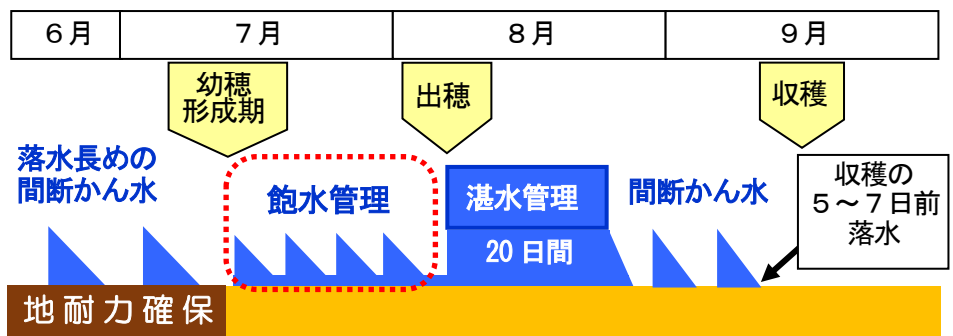
○肥効調節型基肥(基肥一発肥料)栽培では、追加穂肥は施用しない。ただし、出穂7日前の葉色が4.2未満と淡い場合は、出穂3日前までに追加3号で7Kg/10a程度の追加穂肥を行きましょう。

○分施栽培では、幼穂形成期から7日後(幼穂15mm)を目安に1回目の穂肥を施用しましょう(表2)。

2 水管理

- 幼穂形成期以降は、根の活力を維持するため、飽水管理を行い、足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持しましょう。
- 出穂後20日間は、湛水状態を保ちましょう。

図 水管理のイメージ



3 病害虫防除

- 病害虫防除は、コシヒカリに準じて実施しましょう(表3)。
- なお、生育期間を通して、化学合成農薬の成分使用回数(殺虫剤、殺菌剤、除草剤あわせて)が12以内となるか、必ず確認してください。

表3 防除体系 【防除時期の目安: 田植時期は、5月11日頃で推定】

体系	防除時期	薬剤名	成分数	使用量 (10a当たり)	対象病害虫
粉剤	穂揃期(7月31日頃)	ラブサイドキラップ粉剤DL	2	3~4kg	いもち病、カメムシ類、ウンカ類
	傾穂期(8月7日頃)	アルバリン粉剤DL	1	3kg	カメムシ類、ウンカ類
液剤	穂揃期(7月31日頃)	ラブサイドK2フロアブル	2	希釈倍数 1000倍 使用液量 150ℓ	いもち病、カメムシ類
	傾穂期(8月7日頃)	スタークルメイト液剤10	1	希釈倍数 1000倍 使用液量 150ℓ	カメムシ類、ウンカ類
粒剤	出穂10日前(穂ばらみ期) (7月18日頃)	フジワンラップ粒剤	2	4kg	いもち病、カメムシ類、ウンカ類

4 異品種混入防止

- 定期的には場を見回り、異品種(形態や生育時期等が違う株、右図参照)等を抜き取ってください。



稈の長短(抜き上がり)



出穂が早い稲

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！